

糸井太夫遺跡の特色

昭和村の糸井、森下、川額地区には片品川に沿って多くの遺跡がある。平成五年、土地改良事業のために糸井の小字「太夫」（現在の温泉センター北東側地域）で発掘調査が行われた。地層は縄文・平安時代の地層が何層にもわたっていた。最初の地層は縄文時代のもので、当時の竪穴式住居跡が四軒発見され、住居は敷石住居（床に石が敷かれている）となっている。また、住居跡からは、縄文後期の土器が数多く発掘された。



▲縄文後期住居跡の土器群

次の弥生時代の地層からは、土器片が二つ確認されただけで遺跡は確認されなかった。古墳時代の地層においては水田跡が発見され、近くの遊水地から田に水が流れ、米作りが行われていた様子が見られたが、住居跡等の確認をすることはできなかった。次の奈良時代の地層からも、住居跡や遺跡の確認がで

きなかった。

次の平安時代の地層では、九世紀から十世紀にかけて十軒ほどの住居跡（竪穴式）が発見された。この住居跡にはカマドが整備され、食事に使用される土器類の杯、お椀や煮炊き道具の土師器の甕などが出土している。中でも月夜野型とも言われる須恵器羽釜が出土し、月夜野地域との関係も示している。羽釜とは主に米の煮炊きに使われる炊飯道具である。その中から、鉄製の脚付羽釜も出土している。米を炊くための道具が土器製から鉄製になり米の炊き方が大きく進歩している様子がわかる。この鉄製羽釜は県内では初めての出土、長野県では二例あり、長野地域との交流もうかがえる。これらの発掘からは、米が人々の生活に大きく関わってきている様子を感じさせる。

参考 糸井太夫遺跡報告書



▲平安時代鉄製羽釜

昭和村ボランティアガイドの会

理事 堤 義樹



地域包括支援センターだより

健康麻雀はじまります

健康麻雀とは『 賭けない 飲まない 吸わない 』を約束事として

『 健康づくり 仲間づくり 生きがいくくり 』を目的とした麻雀のことです。

麻雀は記憶力・思考力・判断力が必要とされるゲームです。加えて、手先をたくさん動かすため脳への刺激となります。これにより、脳の老化防止や認知症予防に効果があるとされています。

また、麻雀は複数人で行うゲームであるため、自然とコミュニケーションが生まれます。コミュニケーションが社会的なつながりをつくり、孤立感の解消に役立ちます。日課や趣味として麻雀を始めることで、日常生活に楽しみが増え、生活の質が向上するとされています。



地域包括支援センターでは、年内の健康麻雀サロン立ち上げに向けて、麻雀牌や麻雀マットなどを集めています。ご自宅に眠っているものがありましたらご寄付をお願いいたします。



問合せ 地域包括支援センター ☎ 20-1126

